

公開シンポジウム「子どもの貧困－成育環境に及ぼすその影響と対策について考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
2. 後 援：北海道大学行動科学科「子どもの司法面接技法の開発と普及プロジェクト」
(予定) ほか
3. 日 時：平成29年2月28日(火) 13:30～16:50
4. 場 所：日本学術会議講堂
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

近年、父母の経済的理由、虐待や放任などにより社会的な養護を必要とする子どもが増えている。また、日本の子どもの貧困率は年々上昇しており、いわゆる先進国のなかでも上位に位置する。グローバル化による競争社会の中で、経済格差は広がるとともに、経済的困窮に陥る家庭は今後ますます増えると考えられる。「子どもの貧困対策の推進に関する法律（子どもの貧困対策法）」（2013年）が成立しているが、子どもの貧困問題に対する具体的な取り組みはまだ始まったばかりである。このシンポジウムでは、「子どもの貧困」研究の第一人者である社会学者の阿部彩氏による基調講演を受け、小児医療・保健、外国人家庭、司法面接現場へのかかわり、地方行政における対策事例、家庭における親子関係という多様な事例や観点より子どもの貧困とその影響について話題提供していただき、行政における対策の課題、家庭も含めた子どもの成育環境としての改善のあり方などについて考え、子どもの貧困に対する社会的取り組みの方途について展望を得たい。

7. 次 第：

- 13:30 開会挨拶と司会
内田 伸子（日本学術会議連携会員、十文字学園女子大学理事・特任教授）
- 13:35 企画趣旨説明「子どもの貧困－現状と課題」
松島 京（日本学術会議特任連携会員、相愛大学人間発達学部准教授）
- 13:45
第1部 基調講演 「子どもの貧困－解決策を考える」
阿部 彩（首都大学東京教養学部教授）
- 14:15－14:25 （ 休憩 ）
- 14:25
第2部 シンポジウム
話題提供1「小児医療・保健領域に見られる子どもの貧困」
五十嵐 隆（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長）

話題提供2 「外国人家庭における子どもの貧困問題」

田中 稲子（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）

話題提供3 「司法における子どもの貧困問題～証言の信用性を分かつ鍵」

仲 真紀子（日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究科教授）

話題提供4 「地方行政における子どもの貧困対策事例～荒川区・武蔵野市～」

小澤 紀美子（日本学術会議連携会員、東京学芸大学名誉教授）

話題提供5 「世界の子育て格差～子どもの貧困は超えられるか～」

内田 伸子（日本学術会議連携会員、十文字学園女子大学理事・特任教授）

指定討論

佐々木 宏子（日本学術会議連携会員、鳴門教育大学名誉教授）

15：50－16：00 （ 休憩 ）

16：00 全体討論

（司会）矢田 努（日本学術会議連携会員、愛知産業大学大学院造形学研究科教授）

16：40 総括・閉会挨拶

矢田 努（日本学術会議連携会員、愛知産業大学大学院造形学研究科教授）

16：50 閉会

8. 関係部の承認の有無：第一部・第二部・第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「Food Environment and Food Choice for Disease Prevention」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同 IUNS 分科会
2. 共 催：公益社団法人日本栄養・食糧学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所
3. 後 援：三島海雲記念財団、飯島藤十郎記念食品科学振興財団（予定）
4. 日 時：平成 29 年 3 月 7 日（火）9：30～12：15
5. 場 所：国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：主にアジア地域の栄養学を専門とする若手の研究者及び実践活動に携わる
リーダーを育成するため、第 3 回「IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショ
ップ」を 2017 年 3 月に開催することとなった。今回は、疾病の予防のための食環境や
食選択に関して議論されることとなったが、同ワークショップの開催に先立ち、公開
シンポジウムとしてこのテーマに関する国内外の著名な研究者に問題点や解決策など
を講義していただく。本公開シンポジウムにより、ワークショップ参加者のみなら
ず、疾患と食をとりまく問題を広く市民に伝え、栄養学に関する最新の知見を提供す
ることを目的とする。
8. 次 第：
座長
吉池信男（青森県立保健大学健康科学部教授）
加藤久典（日本学術会議連携会員、東京大学総括プロジェクト機構特任教授）

9：30 － 10：30
Boyd Swinburn (Professor, The University of Auckland, New Zealand)
“Food environment and food choice for disease prevention”

10：30 － 10：45
休憩
10：45 － 11：15
清水 誠（日本学術会議第二部会員、東京農業大学応用生物科学部教授）
“Nutrients and non-nutrient functional substances -distinguishable?- “

11：15 － 11：45
武見ゆかり（日本学術会議特任連携会員、女子栄養大学栄養学部教授）
“Creating better food environment to improve the accessibility to healthy

diet”

11:45 - 12:15

西 信雄（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所国立健康・栄養研究所国際
産学連携センター長）

“Provision of information on healthy food choice”

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「農芸化学分野におけるエピジェネティクス研究」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会農芸化学分科会、日本農芸化学会

2. 日 時：平成 29 年 3 月 20 日（月） 9：00～12：00

3. 場 所：京都女子大学 C 校舎 C501 室

4. 分科会の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

エピジェネティクスは、ゲノムに記された、遺伝情報の発現を制御するしくみであり、様々な生命現象と密接に関連する。DNA の配列変化を伴わない遺伝子発現制御に基づく遺伝学であり、ポストゲノム時代の重要な研究テーマである。生物種に関わらない普遍的生命現象、化合物、技術を対象として農芸化学分野におけるエピジェネティクス研究を広く取り上げ、企業や一般市民も含めてこの分野の課題や将来への展望について討論し、理解を深める。

6. 次 第：

9：00～9：30 「DNA メチル化による遺伝子発現調節を介した代謝制御」

亀井 康富（京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授）

9：30～10：00 「アレルごとの DNA メチル化状態に注目したエピジェネティクス研究の新たな試み」

大鐘 潤（明治大学農学部生命学科准教授）

10：00～10：30 「ヒドロキシメチルシトシン、メチルシトシンの新しい解析手法とその応用」

幸田 尚（東京医科歯科大学難治疾患研究所准教授）

10：30～11：00 「優劣性を制御する低分子 RNA」

高山 誠司（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授）

11：00～11：30 「エピゲノム創薬を目指したヒストン修飾のリアルタイムイメージング」

吉田 稔（日本学術会議連携会員、国立研究法人理化学研究所主任研究員）

11：30～12：00 「妊娠中のタンパク質栄養と成長後の血圧をつなぐエピジェネティック制御」

加藤 久典（日本学術会議連携会員、東京大学総括プロジェクト機構特任教授）

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は主催分科会委員）

公開シンポジウム「農業経済学教育のあり方を考える－日本学術会議報告案をめぐって－」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業経済学分科会
2. 共 催：日本農業経済学会
3. 日 時：平成 29 年 3 月 29 日（水）13：30～16：00
4. 場 所：千葉大学松戸キャンパス・E 棟 2 階合同講義室
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

農業経済学は日本学術会議報告「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準・農学分野」の中で、「世界と日本の農業、食料、農村、資源、環境等に関わる諸問題を対象とし、経済学を中心とする人文・社会科学の方法により分析し、現実社会の実態の解明を図るとともに、問題解決のための方法と手段を導く分野である」と位置づけられているように、対象を農業のみではなく幅広い領域に広げ、また手法も経済学を中心としながら隣接学問までを組み込んだ研究分野として発展してきた。しかし、従来から教育面ではそれに必ずしも十分に対応できてはいない。新たな領域や手法をどのような科目で学生に教授するのかが各大学で模索されている。また、農学部教育・研究組織の再編が進む中で、限られた教員数で、何をどのように教育すべきかが、一部の大学では問われ始めている。本シンポジウムでは、農学分野の「参照基準」に基づく大学教育の質保証を意識しながら、農業経済学教育のあり方を検討する。

7. 次 第：

13：30 講演

- ①「農業経済学教育のあり方を考える」について
荒幡 克己（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部教授）
- ②農学部における農業経済系カリキュラムの現状と考察
立川 雅司（日本学術会議連携会員、茨城大学農学部教授）

14：15 話題提供「農業経済学教育をめぐる新たな動向」

- ①新設農学系学部における農業経済学教育
小山 良太（日本学術会議連携会員、福島大学経済経営学類教授）
- ②環境分野における農業経済学教育
青柳 みどり（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター環境計画研究室室長）
- ③家政系学部における農業経済学教育
清原 昭子（日本学術会議連携会員、福山市立大学都市経営学部准教授）
- ④「COC+」における農業経済学教育
玉 真之介（徳島大学生物資源産業学部教授）

14：55 パネルディスカッション「農業経済学教育の展望」

パネラー

荒幡 克己（日本学術会議連携会員、岐阜大学応用生物科学部教授）

立川 雅司（日本学術会議連携会員、茨城大学農学部教授）

中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

コメンテーター

盛田 清秀（東北大学大学院農学研究科教授、日本農業経済学会会長）

コーディネーター

小田切 徳美（日本学術会議会員、明治大学農学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「いま問われる研究業績評価：応用物理と未来社会」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会

2. 共 催：公益社団法人応用物理学会

3. 日 時：平成29年3月17日（金）13：00～17：00

4. 場 所：パシフィコ横浜 会議センター1F メインホール

5. 分科会の開催：なし

6. 開催趣旨：

研究者の業績評価に用いられている様々な手法の現状を把握し、学術革新・産業振興につながる応用物理学者の業績評価方法のあり方を議論する。

7. 次 第：

13：00 開会の辞

河田 聡（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

13：10 講演「科学技術のベンチマーキング」

斎藤尚樹（文部科学省科学技術・学術政策研究所総務研究官）

13：50 講演「学術雑誌の評価とインパクト」

広瀬容子（株式会社ラピッツワイド代表取締役）

14：30 講演「アイデアの実現につながる評価方法とは」

對馬哲平（ソニー株式会社新規事業創出部 wena 事業準備室統括課長）

15：10－15：30 （ 休憩 ）

15：30 総合討論

（司会）河田 聡（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）

（パネラー）

金丸正剛（応用物理学会副会長、独立行政法人産業技術総合研究所エレクトロニクス・製造領域 領域長）

斎藤尚樹（文部科学省科学技術・学術政策研究所総務研究官）

広瀬容子（株式会社ラピッツワイド 代表取締役）

對馬哲平（ソニー株式会社新規事業創出部 wena事業準備室 統括課長）

波多野睦子（日本学術会議第三部会員、東京工業大学大学院理工学研究科電子物
理工学専攻教授）

松尾由賀利（日本学術会議第三部会員、法政大学理工学部教授）

16：45 閉会の辞

中野義昭（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「大変革時代に未来を探る数理科学の展開と深化」の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数学分科会

2. 共 催：統計関連学会連合、日本応用数理学会、日本数学会（予定）

3. 日 時：平成29年3月21日（火）13：00～17：20

4. 場 所：日本学術会議講堂

5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

第3部数理科学委員会では、数学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けて議論してきた。社会や産業の構造が大きく変わろうとしている今日、データ等からは単純な構造が見いだせないような複雑な現象の中に、何らかの数学的構造を見いだすことで現象の解明が出来るのではないかという考えから、数理科学への大きな期待がよせられている。数理科学の分野の中には応用を意識して生まれたものも多いが、それらの分野においても、基礎となる数学は応用を意識せず純然たる知的好奇心から生まれたものであることが少なくない。これが数理科学の汎用的な力を生み出す源泉ともなっている。本公開シンポジウムでは、現代そして未来の社会に必要とされる数理科学の新たな展開と深化について考えたい。

7. 次 第：（予定）

13:00 開会の挨拶／趣旨説明（提言「数理科学と他の科学分野や産業との連携の基盤整備に向けた提言」の報告）

坪井 俊（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院数理科学研究科教授）

13:20～15:20 講演

講演者：松本洋一郎（日本学術会議第三部会員、理化学研究所理事）

原山優子（総合科学技術・イノベーション会議議員）

江村克己（日本電気株式会社 取締役 執行役員常務 兼 CT0）

西浦廉政（東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授）

15:50～17:20 パネルディスカッション

司会：小谷元子（日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構
機構長・大学院理学研究科教授）

パネリスト：

前田吉昭（日本学術会議連携会員、東北大学知の創出センター特任教授）、

高田 章（日本学術会議連携会員、旭硝子株式会社中央研究所特任研究員）、

松本洋一郎（日本学術会議第三部会員、理化学研究所理事）

原山優子（総合科学技術・イノベーション会議議員）

江村克己（日本電気株式会社 取締役 執行役員常務 兼 CT0）

西浦廉政（東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授）

17:20 閉会の挨拶 小谷元子（日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構機構長・大学院理学研究科教授）

8. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「地名標準化の現状と課題－国家地名委員会（仮称）の設置に向けて」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議地球惑星科学委員会 IGU 分科会、日本地理学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成29年3月28日（火） 13：00～16：30

5. 場 所：筑波大学

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：地名は特定の土地に付与された名称だが、その名称や表記をめぐっては国際的にも国内的にも統一が困難で、国連が地名標準化会議(UNGSGN)を設置し、地名表記の標準化に向けた研究・勧告を続けてきた。これを受け、日本学術会議 IGU 分科会では国際地図学協会(ICA)小委員会と連携し、「地名小委員会」を設置して検討を重ねてきた。本シンポジウムは国家地名委員会設立の必要性を広く周知し協力を得るために開催する。

8. 次 第：

13：00 開会挨拶・趣旨説明

高木 彰彦（九州大学人文科学研究院教授）

13：05 国際地図学協会(ICA)の動向

森田 喬（日本学術会議連携会員、法政大学デザイン工学部教授）

13：25 国連地名標準化会議の動向

渡辺 浩平（帝京大学文学部准教授）

13：45 国土地理院の取組

水田 良幸（国土交通省国土地理院基本図情報部地名情報課課長補佐）

14：05 海洋情報部の取組

矢島 広樹（海上保安庁海洋情報部技術・国際課課長補佐）

14：25 教科書会社の取組

本田智比古（株式会社帝国書院編集部地図編集室課長代理）

14：45－15：00 （ 休憩 ）

15：00 国家地名委員会（仮称）提案の趣旨

田邊 裕（環太平洋大学国際科学・教育研究所特任教授、東京大学名誉教授）

15：25 総合討論

（司会）岡本 耕平（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授）

高木 彰彦（九州大学人文科学研究院教授）

16 : 30 閉会挨拶

岡本 耕平（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「情報教育」の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会情報科学技術教育分科会

2. 共 催：東京大学情報理工学系研究科

3. 後 援：一般社団法人情報処理学会情報処理教育委員会

4. 日 時：平成29年2月27日（月）13:00～17:00

5. 場 所：東京大学小柴ホール

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

コンピュータ科学分野で著名であることに加えて、計算論的思考(computational thinking)---コンピュータ科学者のように考えること---の提唱者として、世界の情報教育に多大な影響を与えている Microsoft 社の Jeannette Wing 氏を迎えて、情報教育に関して考える半日のシンポジウムを開催する。Jeannette Wing 氏の講演を中心に、特に情報学を専門としない人々に対する情報教育をテーマに、小学校から大学の教養教育さらに専門教育における情報教育に関する講演とパネルディスカッションを企画した。

8. 次 第：

13:00 挨拶

石川 正俊（東京大学大学院情報理工学系研究科研究科長）

13:10 挨拶

浅野 敦行（文部科学省高等教育局専門教育課課長）

13:30 講演「Computational Thinking」

Jeannette Wing（Microsoft Vice President）

14:15 講演「日本の情報教育 Overview: Informatics Education in Japan」

萩谷 昌己（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

14:45－15:00（休憩）

15:00 講演「ビーバーチャレンジ」

谷 聖一（日本大学文理学部情報科学科教授）

15:20 講演「教養教育における情報教育」

布施 泉（北海道大学情報基盤センター教授）

15:40 講演「専門基礎としての情報教育」

寛 捷彦（日本学術会議連携会員、情報オリンピック日本委員会理事長、早稲田大学理工学術院教授）

16:00 講演「産業界からの情報教育への期待」

岡田 勲（NEC 技術イノベーション戦略本部シニアマネージャー）

16 : 20 パネル討論

司会 萩谷 昌己（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院情報理工学系研究科教授）

パネリスト Jeannette Wing (Microsoft Vice President)

谷 誠一（日本大学文理学部情報科学科教授）

布施 泉（北海道大学情報基盤センター教授）

寛 捷彦（日本学術会議連携会員、情報オリンピック日本委員会理事長、早稲田大学理工学術院教授）

岡田 勲 (NEC 技術イノベーション戦略本部シニアマネージャー)

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の登壇者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「熊本地震・一周年報告会」の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会、
熊本県、防災学術連携体（55 学会）

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 29 年 4 月 15 日（土） 11：00～18：20

5. 場 所：熊本県庁本館 地下大会議室

6. 分科会等：なし

7. 開催趣旨：

平成 28 年 4 月 14 日、16 日に発生した熊本地震から 1 年目にあたる平成 29 年 4 月 15 日に、地震・災害・救援・復興等に関わる各学会の調査状況を地元の方々に伝えると共に、熊本県・市町村からも復旧・復興に関わる情報を発信し、関係者間で更なる情報共有をはかり、今後の防災減災・災害復興に役立てるために、一周年報告会を開催する。

日本学術会議防災減災・災害復興に関する学術連携委員会は、防災学術連携体（防災減災・災害復興に関する 55 学会のネットワーク）と連携して、28 年 5 月 2 日に熊本地震・緊急報告会（17 学会発表）、7 月 16 日に熊本地震・三ヶ月報告会（23 学会発表）を開催してきた。その後、熊本県・大分県周辺では、熊本地震の余震、阿蘇山の噴火、雨による土砂災害の多発が懸念されており、各学会は調査や支援活動を継続し、多くの知見を蓄積しつつある。このたびは、12 の学会が全国から集まり、熊本地震に関する調査結果を発表する。

8. 次 第：（予定）

11：00－13：00 ポスターセッション

（参加検討）こども環境学会、地域安全学会、地理情報システム学会、
日本応用地質学会、日本火災学会、日本計画行政学会、日本災害看護学会、
日本災害復興学会、日本自然災害学会、日本地すべり学会、日本造園学会、
日本地質学会、日本地域経済学会、日本緑化工学会

13：00 開会

司会：米田 雅子（日本学術会議会員、慶應義塾大学先端研究センター特任教授）
調整中（熊本県）

主催挨拶

大西 隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

熊本県知事挨拶

蒲島 郁夫（熊本県知事）

趣旨説明：日本学術会議 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員長
和田 章（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）

挨拶

高橋 和雄（日本自然災害学会会長、長崎大学名誉教授）

13：15 学会発表（発表枠は15学会、各11分＋グループ質疑5分）

① 熊本地震の観測と現象解明

日本活断層学会、日本地震学会、日本リモートセンシング学会

② 地震の被災状況と対策について

日本建築学会、空気調和・衛生工学会、日本機械学会、
土木学会、農業農村工学会

③ 土砂災害・風水害と対策について

森林学会、砂防学会、地盤工学会

15：31－15：46 休憩及びポスターセッション

15：46 学会発表

④ 情報提供・避難・救援・復旧・復興について

日本災害情報学会、日本集団災害医学会、廃棄物資源循環学会、
日本地震工学会

16：35 熊本県・市町村の発表

① 熊本県の災害時の対応と復旧復興プラン

② 熊本市の災害時の対応と熊本城の再建計画

17：25 全体質疑

17：50 閉会の言葉

廣瀬典昭（防災学術連携体代表幹事）

調整中（熊本県）

18：00 閉会

18：00－18：20 ポスターセッション

（下線の登壇者は、主催委員会委員）